

# 将来を見据えた学校施設の整備に関すること

佐倉市教育委員会  
令和7年1月14日

# 学校がもつ又は期待される様々な役割



～児童生徒の学習、生活の場として～



～教職員の働く場として～



～子どもたちの居場所として～



～市民のスポーツ、レクリエーションの働く場として～



～災害時の避難の場として～

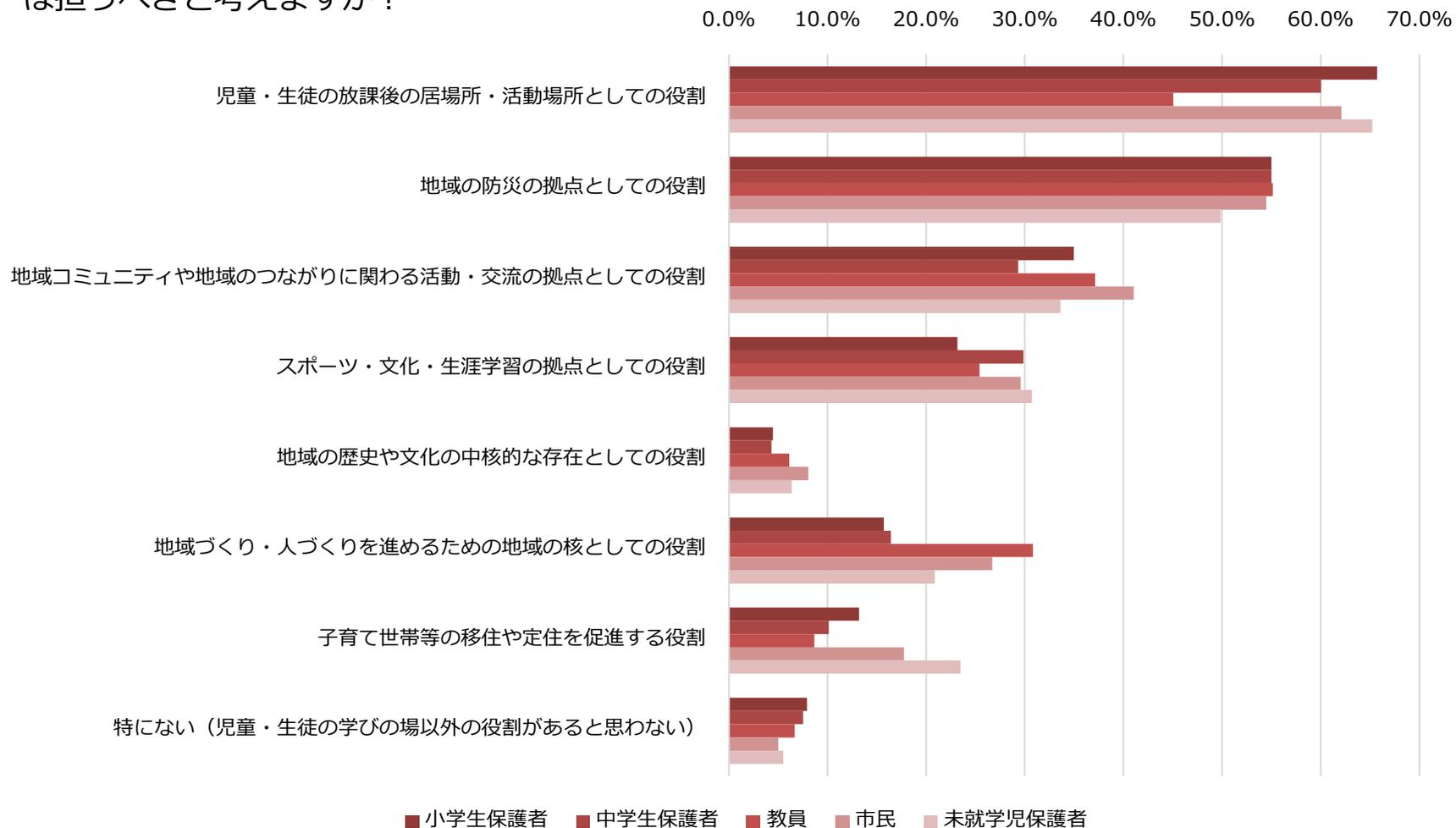


# 学校がもつ又は期待される様々な役割



## 【アンケート調査】

学校について、児童・生徒の学びの場としての役割以外に、どのような役割を担っている、または担うべきと考えますか？



## <2010年代以降の工事履歴>

- ・ ~2015年まで 耐震補強関連工事の完了
    - すべての学校施設で耐震性能を満たす
    - 総額約72.1億円
  - ・ 2019年 普通教室における空調完備（冷暖房）
    - 総額約24.3億円※維持管理費等含む
  - ・ 2020年～ 学校トイレの洋式化（令和7年度末に100%予定）
    - 総額約32億円※予算ベース
- 安全・安心を高めるために様々な整備事業を行ってきたところ。
- 今後の学校施設は、①更なる安全・安心（老朽化対策・バリアフリー）、  
②地球環境配慮 ③新しい学びの実現 ④豊かな学習・生活の場  
⑤地域・社会との連携・協働 が求められている。

## ○安全・安心な教育環境の実現の視点

【主な整備内容】

- ・非構造部材も含めた耐震対策
- ・老朽化対策  
（例：構造躯体の経年劣化の解消、外壁の補修、耐久性を高めるための塗装・防水、設備の更新等）
- ・スロープ、バリアフリースイレ、エレベーター等のバリアフリー化  
※避難所指定、要配慮児童生徒等の在籍状況等を踏まえて着実に対応



長寿命化改修により建替え同等の教育環境を確保

参考：学校施設の教育環境向上を図る改修等に関する課題解決事例集（令和5年5月 文部科学省）

# 求められる視点（②地球環境配慮）



## ○持続可能な教育環境の実現の視点

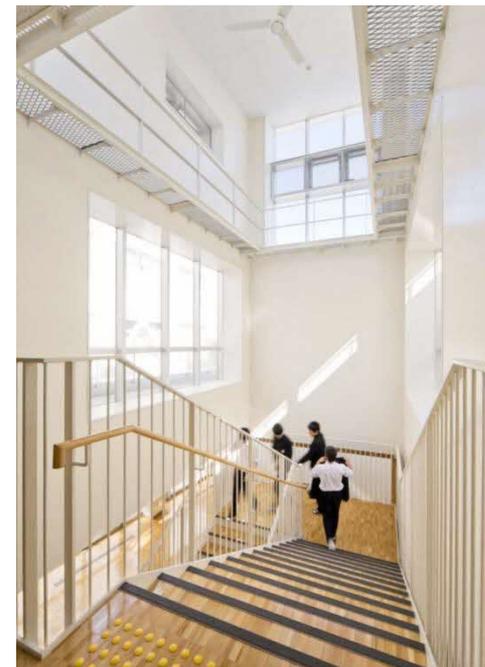
【主な整備内容】

- ・壁や窓等の断熱性向上、高効率照明等の導入の脱炭素化

※長寿命化改修においても新築に準じた学校施設のZEB化を計画することが望ましいものとして推進



直射日光を遮る水平ルーバー



ハイサイド窓から光が入る階段室



LED照明、明るさセンサー



温度・湿度・CO2濃度がわかるエコモニター

参考：学校施設の教育環境向上を図る改修等に関する課題解決事例集（令和5年5月 文部科学省）

## ○柔軟で創造的な学習空間の実現の視点

### 【主な整備内容】

- ・ 既存の面積資源を有効活用・再配分し、多様な学習活動等に柔軟に対応できる学習・執務空間を整備  
(例：教室空間の充実、可動間仕切りの設置、多目的スペースの整備、廊下等共用部分の有効活用、学校図書館の機能向上、家具を含む学びの空間を一体的に計画、職員室等の執務環境の改善等)
- ・ 高速大容量通信ネットワーク等の1人1台端末を活用した学習環境を整備
- ・ インクルーシブ教育システムの構築や合理的配慮の基礎となる環境整備  
(例：特別支援学級や通級による指導のための環境整備等)



可動式のパーテーション



遠隔地（農家）とオンラインで繋ぐ様子



職員室奥のリフレッシュスペース

参考：学校施設の教育環境向上を図る改修等に関する課題解決事例集（令和5年5月 文部科学省）

# 求められる視点（④豊かな学習・生活の場）



## ○健やかな学習・生活空間の実現の視点

【主な整備内容】

- ・トイレの洋式化・乾式化
- ・特別教室、体育館等の空調整備
- ・内装木質化等の木材の積極的な活用

（例：内装木質化による快適で温かみのある生活空間（リビング空間）の整備等）



廊下の木質化、暖房区画としての建具



地域材を活用した内部環境の改善



体育館に設置された空調設備

参考：学校施設の教育環境向上を図る改修等に関する課題解決事例集（令和5年5月 文部科学省）

# 求められる視点（⑤地域・社会との連携・協働）



## ○地域や社会との連携・協働の実現の視点

### 【主な整備内容】

- ・ 既存の面積資源を有効活用・再配分し、他の公共施設等と複合化・共用化  
※地域の面積資源に応じて、首長部局等と横断的に検討
- ・ 避難所としての防災機能強化（自家発電設備、情報通信設備、断水時のトイレ対策、LPガスの活用等）
- ・ 域内のハザード情報を踏まえた水害対策（受変電設備の嵩上げ、止水板の設置）  
※防災担当部局や治水担当部局等と連携して対応

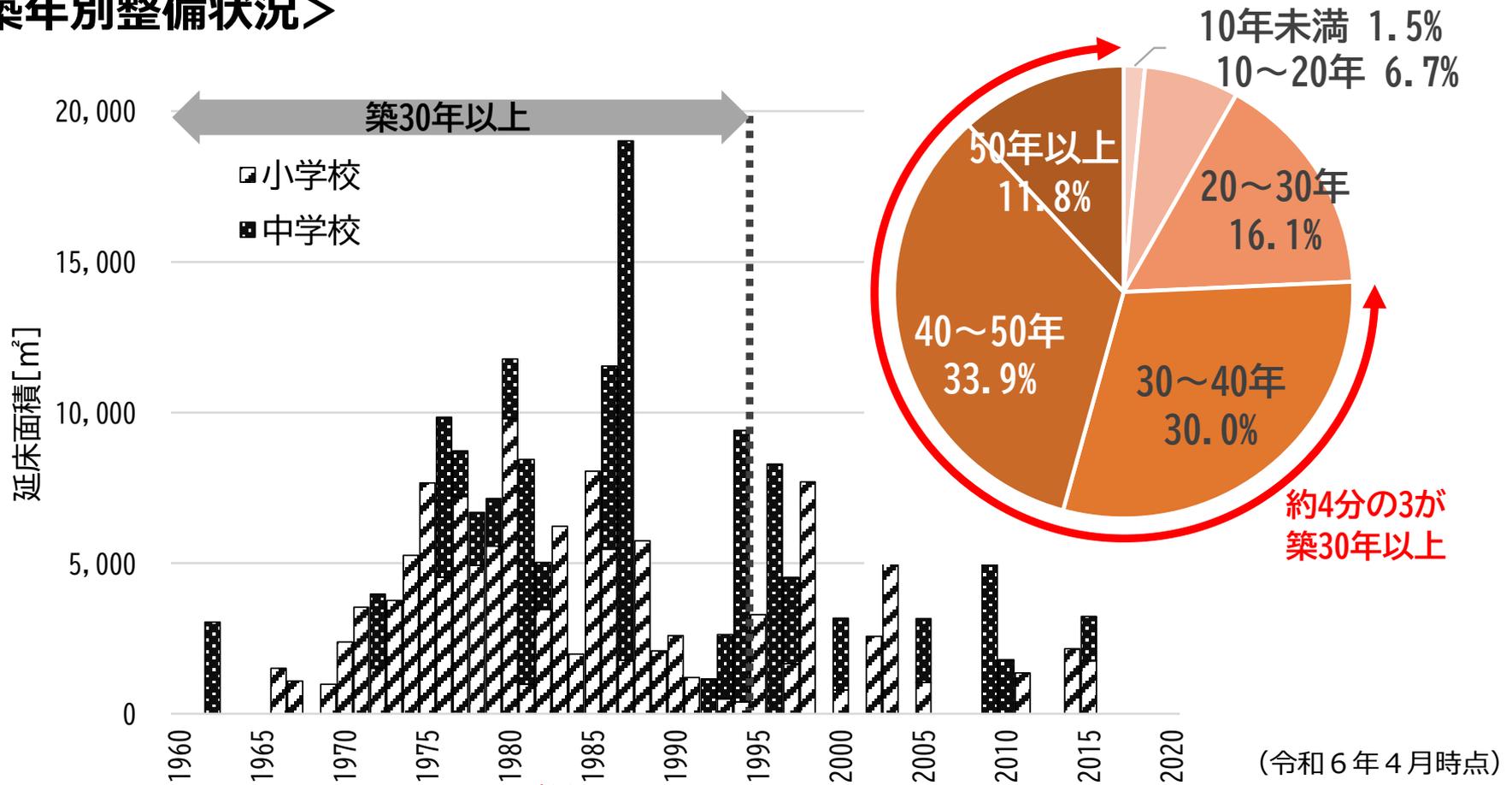


災害フェーズと各機能に求められるイメージ（災害直後）

地域と共同利用する図書館（奥）、災害対応を想定したカセットコンロを備えた家庭科室（手前）

参考：学校施設の教育環境向上を図る改修等に関する課題解決事例集（令和5年5月 文部科学省）

## <築年別整備状況>



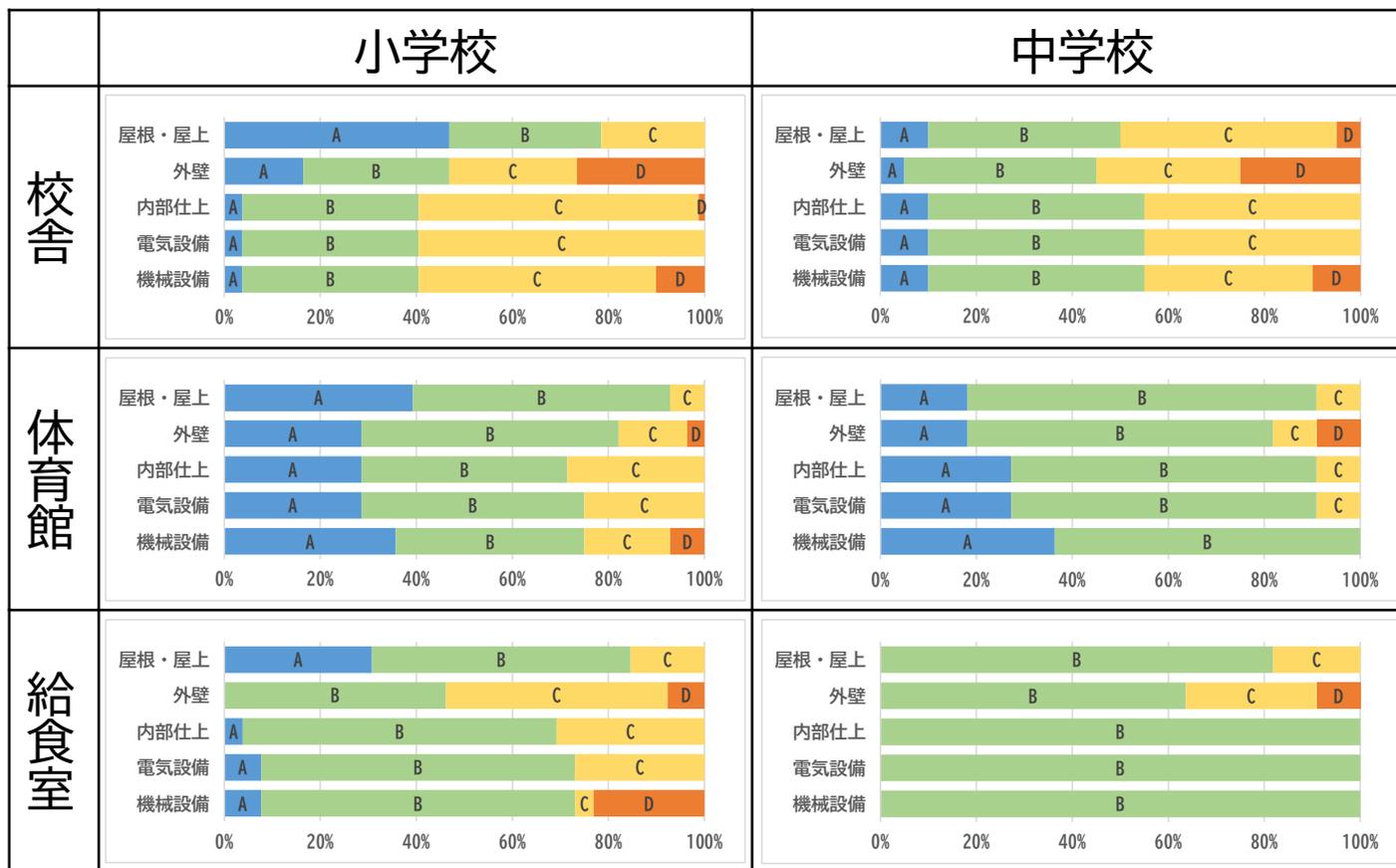
延床面積ベースで4分の3以上が築30年以上

⇒老朽化が進行し、改修・建替えが必要

# 学校施設の現状



## <部位別劣化状況>



●屋根・屋上、外壁  
→目視による評価

評価	基準	
	良好	劣化
A	概ね良好	
B	部分的に劣化	
C	広範囲に劣化	
D	早急に対応する必要がある	

●内部仕上、電気設備、機械設備  
→経過年数による評価

評価	基準	
	良好	劣化
A	20年未満	
B	20～40年	
C	40年以上	
D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合	

特に小中学校の校舎の老朽化が進んでいる

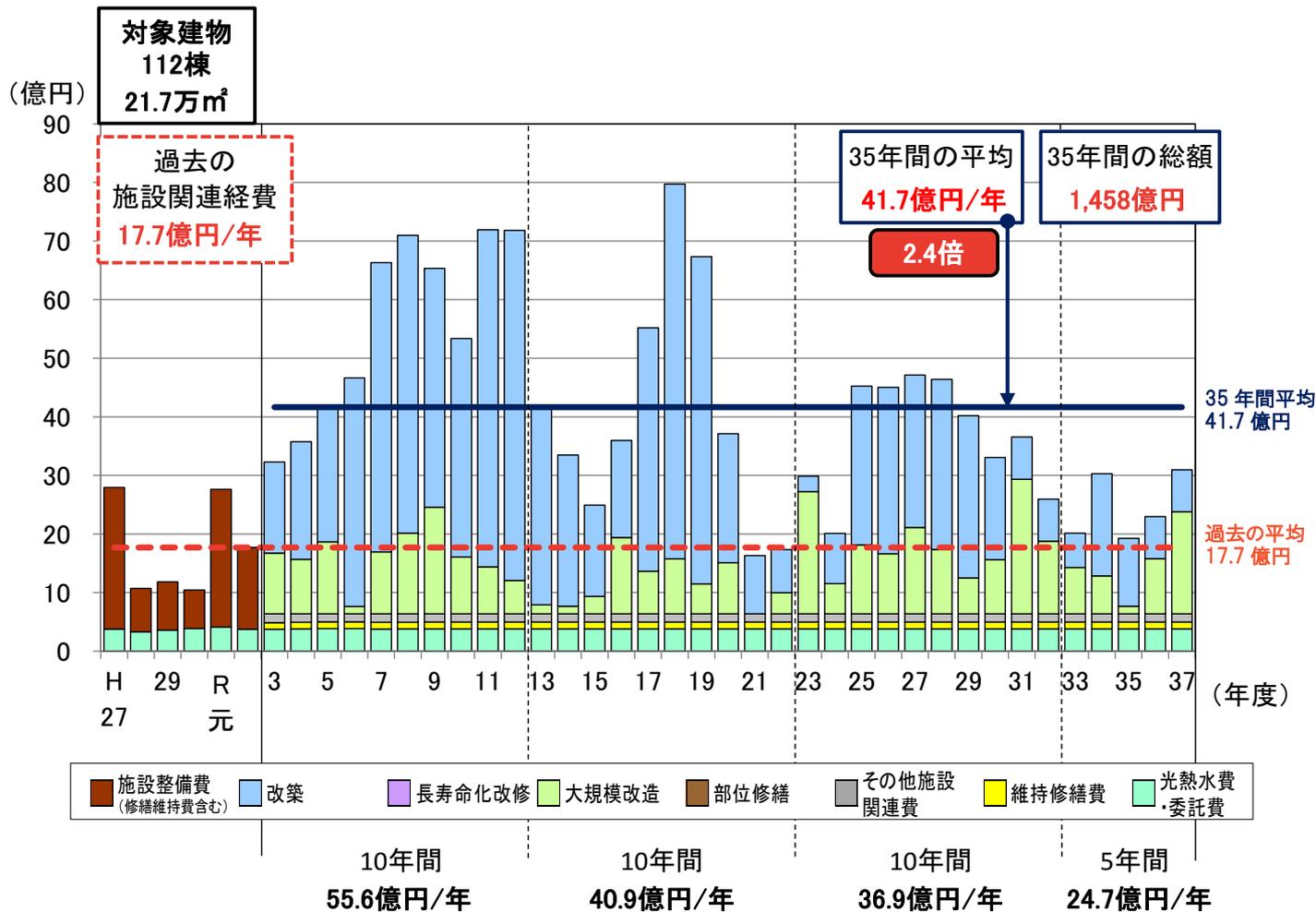
参考：佐倉市教育施設長寿命化計画（令和3年3月）

※令和5年度の調査結果を反映

# 学校施設の将来の維持管理コスト等



## <将来コスト> 従来型（築50年目で建替え）



現有施設を全て50年  
で建替えて維持

↓

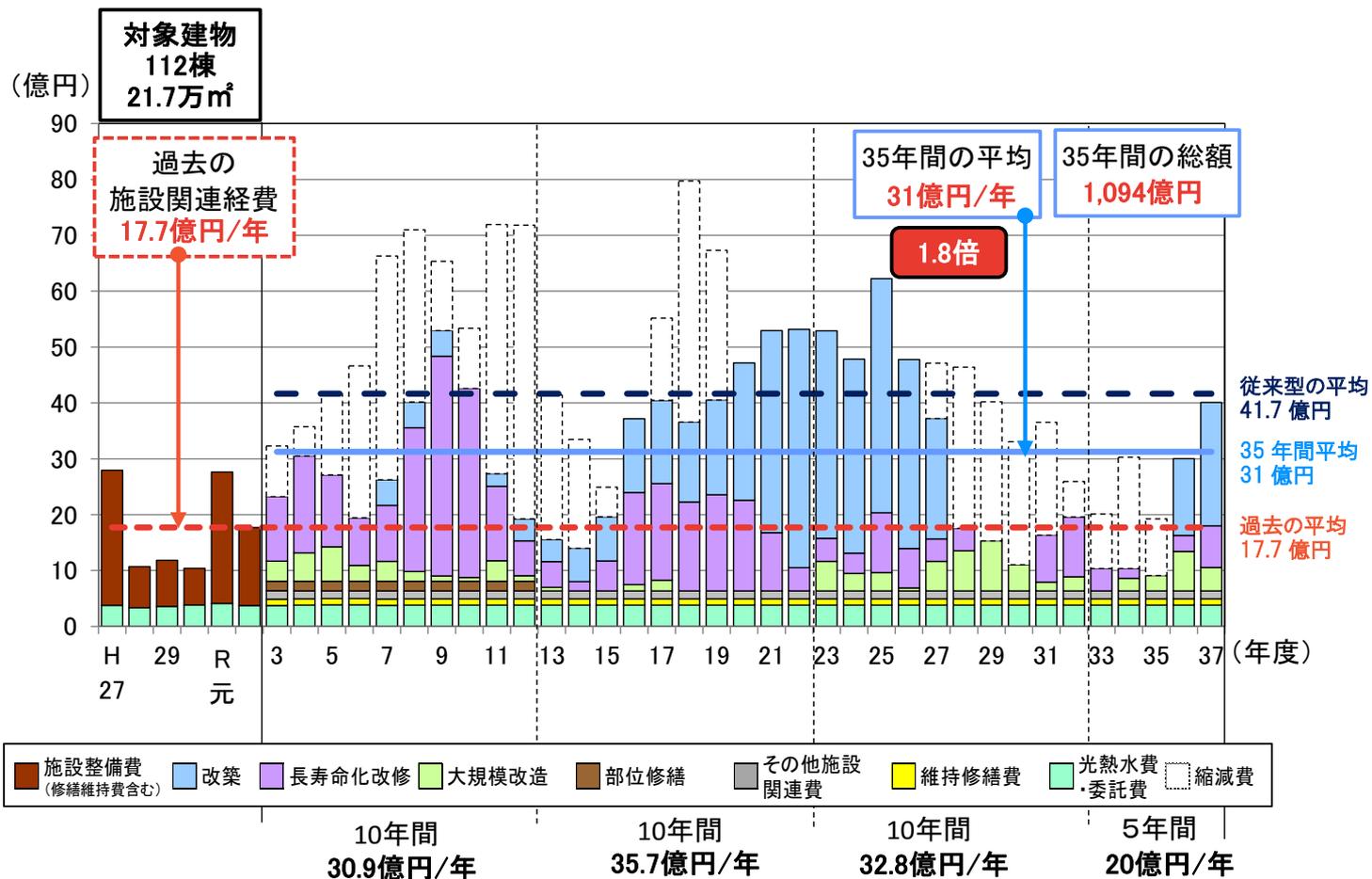
過去の整備費用の  
2.4倍が必要

特に直近で建て替  
えが集中

# 学校施設の将来の維持管理コスト等



## <将来コスト> 長寿命化型（築40年目で長寿命化改修、築75年目で建替え）



一部、長寿命化を適用

↓

過去の整備費用の1.8倍が必要

特に直近で長寿命化改修が集中

参考：佐倉市教育施設長寿命化計画（令和3年3月）

